

しあわせ研究所叢書第一巻 『病災害の中のしあわせ』刊行

主任 一ノ瀬正樹



令和3年12月末に、武蔵野大学しあわせ研究所叢書第一巻『病災害の中のしあわせー自然災害とコロナ問題を踏み分けてー』が武蔵野大学出版会より刊行されました。本書は、令和3年1月に開催された「しあわせ研究所第5回シンポジウム：『不可避的な病災害のなかでのしあわせ学』序説」での議論を母体として、そのときの基調講演者の東京農工大学の水谷哲也教授、学内登壇者である永井尚美教授、中板育美教授、藤原克己教授、日野慧運准教授、私一ノ瀬に加えて、しあわせ研究所の西本照真所長、石上和敬副所長、渡部博志主任、そして慶應義塾大学の幸福学の第一人者である前野隆司教授にも寄稿いただき、武蔵野大学として総力を挙げて現在の危機的状況に対して、満を持して、学問的な発信と貢献を行うべく公刊されたものであります。とりわけ、ウイルス学の専門家である水谷教授にコロナウイルス問題としあわせの連関を論じていただいたのは、本書の客観的かつアカデミックな意義を担保する上で、大変に有り難いことでした。編集は西本所長と私一ノ瀬が行いました。

全体は、3部構成です。第1部「現象への接

近」では、ウイルス学、薬学、経営学の見地から現象としてのコロナ感染症問題について論じ、第2部「倫理的アプローチ」では、看護学、哲学倫理学、幸福学、仏教学の観点から、自然災害や感染症に面したときの私たちの「生」について検討し、第3部「文化からの分析」では、仏教学、文学などの視点から、私たちが病災害に襲われた歴史を振り返り、将来への教訓を探ることを目指しています。非常に多面的かつ学際的な態勢のもと、災害や感染症の問題に眼差しを向け、しかも、その中においていかにして「しあわせ」が語りうるか、という根源的な問題をえぐり出そうとした、刺激あふれる本になったのではないかと感じています。「しあわせ」というと、安定した環境での満足した状態というように表象されがちですが、それだと、災害や疫病がデフォルトとして存在するこの地球環境の中で生きる私たちにとって、「しあわせ」を実現する機会は限られたものになりかねない、それどころか一生実現できない、ということにもなりえます。しかし、困難に面したときにも、成立する「しあわせ」があるのではないかと。いやむしろ、困難なときにこそ、真なる「しあわせ」が到来するのかもしれないのではないかと。そのような究極的な問いについて、本書とともに考えていただけたなら、しあわせ研究所叢書第一号としての意義が果たされるのではないかと希望しています。

世界の幸せをカタチにする。
Creating Peace & Happiness for the World



Musashino University Creating Happiness Incubation

武蔵野大学しあわせ研究所

電話：03-5530-7730

東京都江東区有明3-3-3

メール：mhi@musashino-u.ac.jp